

令和 7 年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策

米麦畜産課
(農産振興室)

生育の概況	乾燥傾向で生育は緩慢であったが、3月以降の高温、降雨により、各麦種の出穂期は平年並から3日遅い程度となった。現在の作柄は「並」が見込まれる。
作業の進捗状況	赤かび病等防除、排水対策

1 気象経過（前橋地方気象台データの平年比、※4月は20日まで、参考資料参照）

項目	11月	12月	1月	2月	3月	※4月
平均気温	+1.5℃	+0.3℃	+1.3℃	-0.3℃	+1.2℃	+1.1℃
降水量	140%	-%	20%	4%	144%	149%
日照時間	105%	115%	115%	106%	96%	98%

2 生育概況

(1) 概要

12月から2月末まで乾燥傾向で続いていたことから生育は緩慢で、は種時期の遅速による生育差が大きくなっていた。その後3月にはまとまった降雨があり、気温も平年より上回ったことから、停滞気味であった麦の生育が促進された。4月も引き続き温度が高く、出穂期は小麦、二条大麦、六条大麦ともに平年並から3日遅い程度となっている。遅く播種したほ場ほど生育は遅れている。草丈は平年より低い傾向だが、穂数は確保されている。

4月17日発表の向こう1か月の長期予報では、平年より気温が高い確率が60%と予想されており、成熟期は平年並みからやや早まることが見込まれる。また、生育が旺盛なほ場では病害（赤かび病、うどんこ病）や倒伏の発生が懸念される。

(2) 病虫害・障害等の発生状況

雑草は、播種後の降水量が少なく土壌が乾燥していたため発生が遅れているが、コアカザ、カラスノエンドウ、ヤエムグラ、スズメノテッポウ、カラスムギ、イタリアンライグラス、ヤグルマギク（畑）の発生が見られる。全麦種においてアブラムシの発生が散見される。排水の悪い一部ほ場では、部分的な湿害が見られる。

(3) 作況は等の調査結果

作況は（さとのそら）のデータの平均は、播種期は11月25日（過去平均比+3日）、3月20日現在の草丈が22.6cm（同81%）、茎数が1,182本/m²（同113%）、幼穂長が3.1mm（同69%）となっている。

農業技術センターの生育基本調査結果（小麦「さとのそら」、11月14日播種）では、4月10日現在の草丈が60.5cm（過去10カ年平均比100%）、茎数が626本/m²（同91%）であり、節間伸長始期は3月19日（同±0日）、出穂期は4月20日（同+1日）であった。

(4) 作柄のまとめ

小麦の作柄は各地とも「並」であることから、県内平均作柄は「並」が見込まれる。

表 1 小麦作況ほ調査結果（さとのそら）

地 区	播種期	3 月 20 日			出穂期 月 日
		草 丈 cm	茎 数 本／m ²	幼穂長 mm	
平 均	11/25(+3 日)	22.6(81)	1,182(113)	3.1(69)	4/19(+3 日)
前 橋 市	11/18(-)	23.8(-)	1,082(-)	4.0(-)	4/17(-)
伊勢崎市	11/24(+2 日)	16.8(61)	887(108)	2.8(50)	4/20(+5 日)
高 崎 市	11/21(+4 日)	22.2(79)	1,147(114)	3.4(55)	4/18(+4 日)
太 田 市	12/ 3(+4 日)	21.0(93)	940(101)	2.0(94)	4/22(+2 日)
千代田町	11/22(+3 日)	30.4(91)	1,752(123)	4.2(102)	4/19(+1 日)

*各地区の()内は過去の平均値に対する日数および比率(%)。

*日数の「-」は早い、「+」は遅いことを示す。

過去の平均値は、前橋市は令和 6 年ほ場変更により過去値なし、伊勢崎市は過去 3 年、高崎市は同 5 年、太田市は同 10 年、千代田町は同 3 年の値。前橋市は県平均から除外した。

表 2 生育基本調査結果（農業技術センター、さとのそら）

播種期 月／日	幼穂形 成始期 月／日	節間伸 長始期 月／日	3 月 20 日		4 月 10 日		出穂期 月 日
			草丈 cm	茎数 本／m ²	草丈 cm	茎数 本／m ²	
11/14 (-1)	3/3 (+2)	3/19 (±0)	22.0 (78)	766 (79)	60.5 (100)	626 (91)	4/20 (+1 日)

* () 内は過去 10 年の平均に対する日数および比率(%)。

表 3 農畜産課・地域農業課管内の麦類の作柄概況

地 区	県平均	中 部	伊勢崎	西 部	東 部	館 林
作柄概況	並	並	並	並	並	並

3 技術対策

(1) 赤かび病対策

ア 麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール（赤かび病の病原菌が産生するかび毒）汚染防止のため、赤かび病の防除を必ず実施する。各麦種の防除適期は、小麦が開花始期～開花期（出穂 7～10 日後頃）と開花 10～20 日後、二条大麦が蒴殻抽出期（穂揃期 10 日後頃）、六条大麦が開花始期～開花期である。2 回目の防除は、1 回目の 7～10 日後を目安に行う。

「ゆめかおり」は赤かび病防除と同時作業での尿素溶液による葉面散布を行う。

イ 倒伏したか所や赤かび病の発生が認められた場合は、刈り分けを行い健全麦への混入を回避する。調製施設等においては、荷受け時の確認を徹底するとともに、ふるい目の拡大や比重選別機、色彩選別機等を利用して被害粒を除去する。

(2) うどんこ病・アブラムシ対策

発生状況に応じて防除を行う。「つるぴかり」「きぬの波」はうどんこ病に弱く、過繁茂のほ場で発生しやすい点に留意する。

(3) 排水対策

排水不良のほ場では排水溝の設置や手直しを行い、湿害や枯れ熟れの回避を図る。

(4) 雑草対策

収穫物に雑草種子が混入しないよう抜き取り等を行う。

(5) 災害対策等

降ひょうにより麦が脱粒し、麦種実がほ場に投入される場合は後作の施肥量の調整を行う。水稻の場合は、脱粒子実が 300kg/10a 程度では基肥窒素を 1～2 割減らし、脱粒子実が 400kg/10a 以上では基肥窒素を 2 kg/10 a 程度にとどめる。

(6) 収穫準備・適正収穫

ア コンバイン等の機械類の清掃を徹底し、あらかじめ済ませておく。荷受け施設

- においては、麦の生育状況に合わせた稼働計画を設定する。また、登熟期の高温・乾燥時は、強制登熟によって成熟がより早まる場合があることに留意する。
- イ 収穫適期の目安は、穀粒水分が 25%以下になった時とする。穂首の曲がり状態で判断すると、二条大麦が 90%以上、小麦・六条大麦が 50%以上の時である。
- ウ 成熟期後に長雨が予想される場合、穂発芽を避けるため収穫可能な場合はできる限り収穫作業を行う。
- エ 収穫した麦は速やかに乾燥させ、品質低下を避ける。

【参考資料】

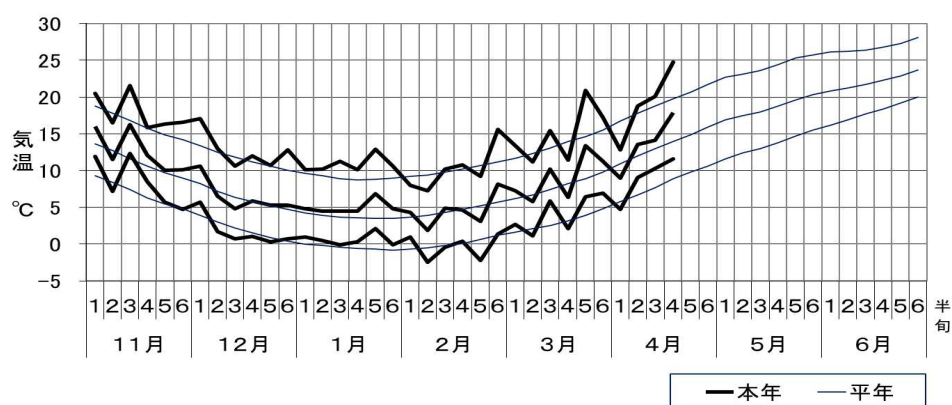


図 1 麦作期間の気温（前橋地方気象台）

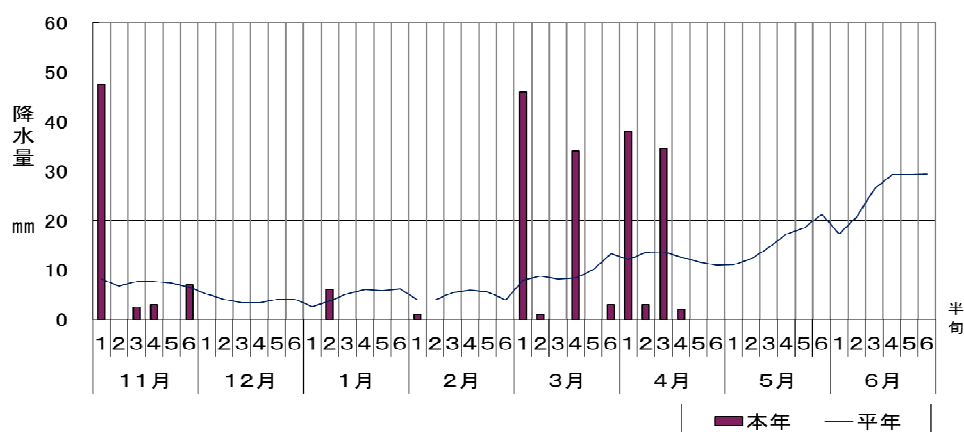


図 2 麦作期間の降水量（前橋地方気象台）

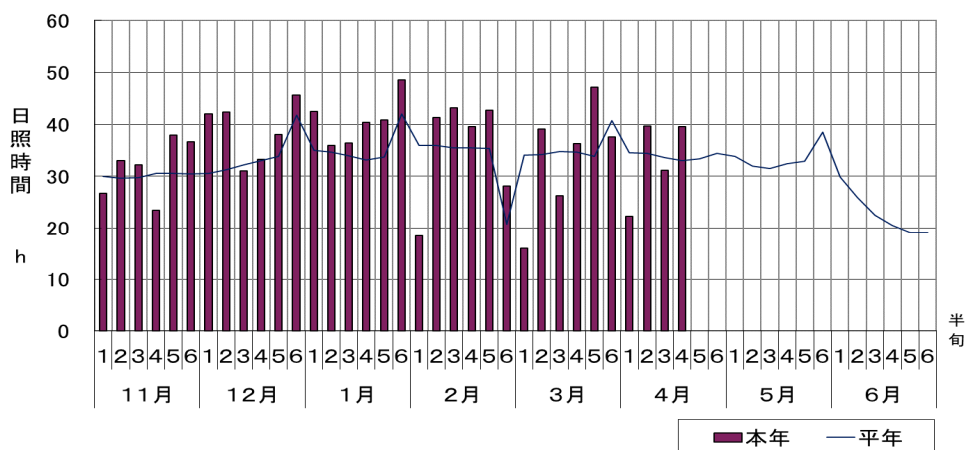


図 3 麦作期間の日照時間（前橋地方気象台）